

区分 ICT技術を活用した分野

(サブタイトル) 情報システムを守る高度なサイバーセキュリティ技術に関する教育訓練プログラム

(開発した訓練の特徴等)

訓練の内容: オンライン学習を活用した高度サイバーセキュリティ人材の育成。～最先端技術と市場を熟知し情報技術・人文・社会科学を含む一次情報の調査力を兼ね備えた高度なサイバーセキュリティ人材を育成。

訓練の対象となる業種・職種等: ①セキュリティを提供する企業のエンジニア、②ユーザ企業のセキュリティ運営技術者及びスタッフ③CISO, 企業経営者等リカレント教育を望む方。④育休中、失業中、病休中の①～③の方。スムーズな復職、キャリアアップ、ジョブトランスファーを実現できる。

(受講のメリット)

- ・オンライン型教材。忙しい受講生の都合に合わせて学べる。
- ・研究者・実務家策定教材で世界に留まり続ける知見を修得可。
- ・ルール形成、メディア対応、心理学、GRCI平時・危機の両面のBCP(事業継続)を修得可。



(実施した時の環境等)

訓練の内容: オンライン学習を活用した高度サイバーセキュリティ人材育成
 募集期間 : 令和2年6月23日～7月20日
 応募人数 : 91人 4コース合計 (＝ミスマッチ予防の為、説明会で高度な旨伝え、問合せの2/3程度に応募絞込み)

受講人数 : 86人(選考:5年以上の経験・強固な志望動機) 4コース合計
 受講日時 : 令和2年9月12日～令和3年2月21日
 日曜祝日 (10:00～17:00)

受講料 : 無料(税別) ※次年度は、1コース6万円 2コース以上選択
 社会人受講生のための配慮:

授業風景を録画し、会員専用サイトGoocusで配信。コミュニケーションツール Slackにてオンラインコミュニティを形成。講師・受講生による情報共有や自発的なイベント案内、勉強会を開催。事務局にてコメントへ随時返信。

区分 ICT技術を活用した分野

(訓練を実施する上で注意する点)

訓練の内容：サイバーセキュリティのインシデントマネジメント経験があり、業種毎のBCPとサイバーセキュリティの関係を理解できる講師が望ましい。

訓練時間数：事前準備オンライン動画活用し、受講生のレベルを揃える
・約120時間(半年間) CISOコース

(訓練を実施する上で推奨される取り組み事例)

事務局によるコミュニティ形成：勉強会や講演会の案内をSlackに提供。また、受講生からのコメント質問に随時回答し、活性化と適正化を図る。科目間の関連付けを事務局から解説。目的を見失わせない。

有識者講演会、シンポジウムの実施：プログラムの終期の時期に第一線で活躍する有識者の対話型講演会(=なりたい人物像の明確化)とシンポジウム(=セキュリティのビジネス・キャリア)を開催。キャリアビジョンが明確に。本社セキュリティ部門へ修了後直ちに抜擢された実績有。



(受講者等からの声)

- ・半年間で法体系や技術面などほとんど知らない分野に触れさせていただき新しいキャリアの入り口が開けました。
- ・独学では学ばない領域に触れることができ自分の範囲を広げることができました、また、活発に意見する方々が大勢いらっしゃって、自分とは異なる意見に触れることができたのはうれしい誤算でした。
- ・学生時代の卒業式でもこんなに名残惜しいことはなかった。ホントは、終わらないんでしょう？

(受託事業者) 国立大学法人九州大学サイバーセキュリティセンター

(詳細・問い合わせ先)

厚生労働省HP:URL..... https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaihatsu/program_development_text.html#ict2

厚生労働省人材開発統括官付参事官室(人材開発政策担当)政策企画室事業係 03-5253-1111(内線5648)